

伊方町

伊方町勢要覽
2021



Tradition



People



Local products



Nature



LOCATION MAP



人をつなぐ。暮らしをつなぐ。文化をつなぐ。
よろこびの風は、この半島を吹き渡っている。
伊方に息づくすべてのものたちは、輝き続ける。
今までも、これからも。



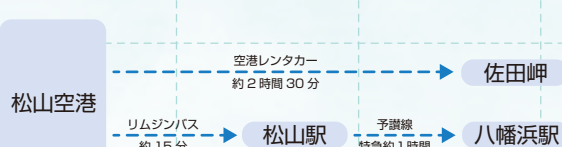
岬13里

佐田岬半島は、延長約50km、最大幅6.2km、最狭部0.8kmの日本で一番細長い半島です。

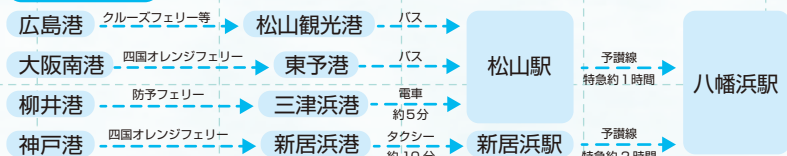
岬13里とは、「愛媛県史」によると、この細長い半島の道程を表す言葉で、この半島のつけ根から先端まで直線距離で35km、道程で48kmあります。

●本州・四国内から佐田岬・八幡浜方面へのアクセス ※表記時間は目安です。各交通手段の運行状況により移動時間は変わります。

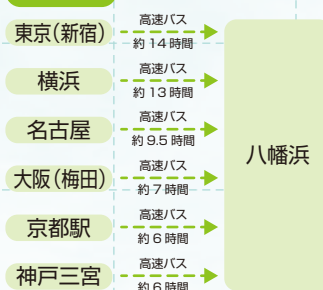
飛行機



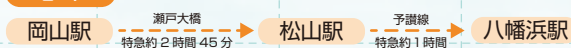
船(フェリー)



バス



電車



車・バイク



●八幡浜駅より伊方町へのアクセス



●九州から佐田岬へのアクセス



伊方町イメージキャラクター
サダンディー親子

太平洋の暖かい空気と、日本海の冷たい空気がぶつかり合い、上昇気流が生まれる佐田岬半島は渡り鳥のメッカ。そんな半島に突然舞い降りてきた鳥の妖精が「サダンディー」です。みんなを元気にするいい種子をたくさん落とし、しあわせな町へとエスコートするのが使命で、風車の虫眼鏡を使い、佐田岬の“いいとこ探し”をしています。

よろこびの風薫るまち伊方

360°
View!



がらんやま
伽藍山からの眺め

伽藍山は佐田岬半島の最高峰(標高414m)で、頂上の展望台からは細長い半島を視界に収めることができ、九州や中国地方の山々も見渡せます。山中には多数の石仏が居並ぶ洞窟があり、信仰の山として知られています。



C O N T E N T S

第1特集 4
未来に残したい伊方町

COLUMN 1 愛媛県立三崎高等学校せんたん部

第2特集 16
四国最西端はこんなにもおもしろい!

COLUMN 2 風のエネルギー

第3特集 24
ふるさと、いかた

佐田岬の味
郷土の歴史・文化
四季の祭り・伝統文化

COLUMN 3 伊方のむかし話

伊方町の将来構想 32

基本目標① 保健・医療・福祉

基本目標② 社会基盤

基本目標③ 防災・減災

基本目標④ 移住・定住

基本目標⑤ 産業・観光

基本目標⑥ 教育・スポーツ・文化

基本目標⑦ 住民協働・行財政

行政・議会

資料編 43

伊方に住む中学生が選んだ
未来に残したい場所10選

未来に残したい 伊方町

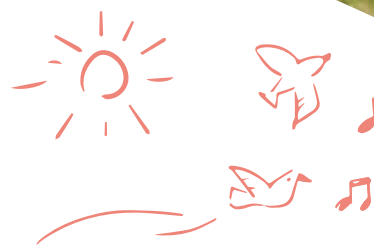
To the future



亀ヶ池 *Kamegaike*

MAP F-19

約400年前に入り江が塞がってできた県内最大の^{せきこ}潟湖で、周囲は約2km、面積は約10.2ha。八畳敷きの大きなカニが住むという伝説が残されており、珍しい動植物が多数生息しています。







瀬戸アグリトピア

Seto Agritopia

MAP G-13

自然と触れ合いながら泊まって学べる体験型学習宿泊施設。サツマイモ掘りなどの農作業、カブトムシやクワガタなどの昆虫採集、星空観察などをしながら、宇和海が一望できるログハウスで宿泊できます。



レジャーはもちろん、
ワーケーションにも◎

Ikata People
Interview



瀬戸アグリトピア 所長
楠本 博貴さん

2階建てを含め10棟あるログハウスからは、宇和海のダイナミックな眺望が満喫できます。特に海上のモヤが晴れる雨降り後は九州まではっきり見渡せ、ずっと眺めていても飽きません。連泊されるお客さまのために体験&学習メニューを年々充実させているほか、レンタサイクルでの自然観察サイクリングやバーベキューも楽しめます。“人は自ら感じて、考えることで成長できる”と思いますが、佐田岬にはそんな場所や機会がたくさんあります。ぜひご家族やグループでご利用ください。

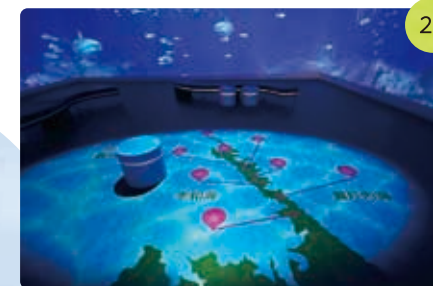
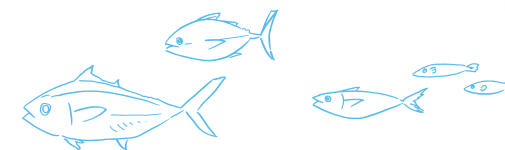


道の駅 伊方きらら館

MAP F-20

Ikata Kirara-kan

宇和海と瀬戸内海の2つの海を一望できる道の駅。魚に素手でエサやりができる「ふれあい水槽」や、部屋全体がバーチャル水族館になっている「きららアクアリウム」があり、家族連れに人気です。



2F



1F



屋上

展望台からの眺望

屋上の展望デッキから宇和海と瀬戸内海の大パノラマを楽しめるほか、3階の「きららリビング」はゆったりくつろげるスペースで、授乳室や親子トイレも完備。

特産品の販売

新鮮な柑橘をはじめジュース、ゼリーなどの柑橘加工品、ひじきなどの海藻類、ちりめん、麦味噌、町の花であるつわぶき加工品などを幅広く販売しています。



1F





佐田岬はなはな

Sadamisaki Hana-Hana **MAP G-8**

佐田岬の魅力がぎゅっと詰まった観光交流拠点施設。観光案内所やレストラン、カフェ、直売所のほか、地域の歴史や文化を紹介するギャラリーを併設。テラス席からは三崎港を発着するフェリーと宇和海、風車が一望できます。



建物は地場産材を利用した木構造と堅牢で安全なRCを組み合わせており、建物内外には佐田岬の文化である「石垣」を取り入れています。



直売所には町内で生産・収穫した海の幸、山の幸をはじめ、佐田岬産の柑橘を使ったジャムやマーマレード、ジュースなどの加工品も充実。



自家製燻製肉のハンバーガー

鼻を抜ける燻製の香りと、食欲をそそる見た目が好評のボリューム満点ハンバーガー。

はなはな丼

しらす、ウニ、イクラ、甘エビなど、新鮮な海の幸を贅沢に盛り付けた人気の一品。



レッドウイング パーク

Redwing Park

MAP F-21

レッドウイング市（米国）との姉妹都市提携を記念して作られた公園。1.7haの広大な敷地には、ネットクライミングやシャクトリトンネル、トリムコースなどの遊具が充実。一番人気は山の斜面にある長さ100m弱のローラー滑り台。



斜面にあるみかん畑

Mikan-batake

海に面した傾斜地には段々畑が作られ、さまざまな柑橘類が栽培されています。中でも清見タンゴールは果肉が柔らかく果汁が豊富で、おいしいと評判です。





佐田岬灯台

Sadamisaki Todai

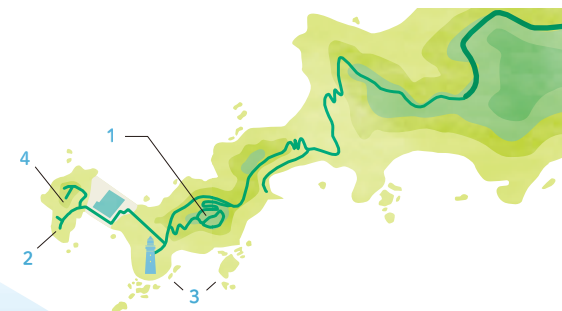
MAP G-1

佐田岬半島の最先端にそびえる白亜の灯台は、1918 (大正7) 年
4月1日に初点灯されました。当時としては珍しい
鉄筋コンクリート造りで高さは18m。
豊予海峡を行き交う船舶はもち
ろん、晴れた日には九州
まで遠望できます。

360°
View!



スマホで
見よう!



① 椿山展望台モニュメント



佐田岬灯台の少し手前にあるウッドデッキ製の展望台には、ハート型のモニュメント「ラブリング」があり、カップルに人気。

② 永遠の灯



みかごじま
点灯100年を記念して御籠島展望所に設置されたモニュメント。中央部の灯台型の空間から白亜の灯台が浮かび上がります。

③ 海上から見た佐田岬灯台



海上からは海岸付近の景色が一望できるため、陸上からは見ることができない佐田岬灯台のもう一つの表情に出会えます。

④ 砲台



灯台の隣にある御籠島には、戦時中、洞窟式砲台が設置されていました。現在、その跡地には砲台のレプリカが展示されています。



Melody-Line

メロディーライン

“メロディーライン”は佐田岬半島を縦走する国道197号の愛称。約40kmの間に、風の音や海からの潮騒、野鳥のさえずりなど、心地よい音色を楽しみながらドライブやサイクリングが楽しめます。

360°
View!



スマホで
見よう!



路面上を一定の速度で走行すると音楽が流れる「メロディー道路」が3カ所設置されており、「みかんの花咲く丘」などが聴こえてきます。



半島中央部に架かる約200mの堀切大橋は、1610(慶長15)年に当時の藩主が瀬戸内海と宇和海を結ぶ運河の開削を試みた場所。



道の駅 瀬戸農業公園

Seto Agricultural Park

MAP G-17

瀬戸内海と宇和海の眺望をパノラマで楽しめる道の駅。地元産の新鮮な柑橘類や魚介類、野菜、加工品などが購入できるほか、金太郎芋を使ったソフトクリームや地元農産物を使ったシャーベットが人気。伊方町出身の冒険家・河野兵市氏のモニュメントもあります。



広場には白い風車のモニュメントをはじめ、佐田岬半島の形をしたベンチや海をイメージした歩道など、伊方町の魅力がまるごと詰まっています。



石垣のある風景

Ishigaki Sightseeing

急傾斜地の多い海岸部では石垣の上に家や道路が造られています。石の種類や大きさ、形、積み方は地域によって異なるため、半島には趣の違う石垣が点在しており、観光資源として見直されています。



名取の石垣

半島では珍しい石灰岩の地層がある名取地区の石垣には、石灰岩に加えほかの地域との交流を示すさまざまな色の岩石が使われています。

MAP H-9



加周の防風石垣

加周地区にある一宮神社の裏には周囲2kmの亀ヶ池があり、池を渡って吹き付ける強い季節風による被害を防ぐため、石垣が築かれています。

MAP F-19



野坂の石垣

青石(緑色片岩)で築かれた高さ4m、長さ140mの防風石垣は「未来へ残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」(水産庁)に選ばれました。

MAP G-4



愛媛県立三崎高等学校せんたん部

学校から地域へ！三崎高校に通う生徒が、地域の人々と交流を図りながら、地域の課題を発見し、その解決策を考え実践していく活動を行っています。

世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会



2021年5月に八幡浜で開かれた日本大会で、三崎高校の生徒が出品した作品が「アマチュアの部 高校生のマーマレード部門」においてベストカテゴリー賞（最優秀賞）を獲得しました。学校の敷地で育っただいたいと伊方町産のハチミツなどを使い、3年間かけて味を追求した努力が実を結びました。



四国最西端最先端の高校生カフェ「みさこう Cafe」



2020年9月に地元のレストランを借りてオープンしたカフェでは、接客マナーの指導を受けたメンバーが来店客をもてなしました。生徒たちは海水から塩を作り、「どら焼き」や「フレンチトースト」などの甘じょっぱいオリジナルスイーツを開発し、販売しました。

せんたん劇場



2020年2月15・16日、伊方町大久地区を一つの劇場に見立て、生徒と住民が交流を深めるイベント「せんたん劇場」を開催。クリエイターのトークイベントや地元へ伝わる踊りの披露、まち歩きガイドツアーなどを実施し、地域住民を中心に約330人が参加しました。

防潮堤アート



防潮堤により海が見えなくなり、無機質な景色ばかりが増えていく中、アートで地元を盛り上げようと、防潮堤アートプロジェクトがスタート。地元の子どもたちと協力し、佐田岬の夕陽やみかん、灯台などを描いたアート作品が2021年5月に完成しました。

一生懸命やれば、何でもできる！

話しかけが大切だと感じました

多くの方と良い関係が築けました

主催者側の面白さを知りました

お客さまの笑顔が励みになりました



四国最西端は こんなにも おもしろい！

いかたの“ココ”がいかしてる！

さまざまな経歴を持つ町民の方たちに、
伊方町の魅力をお聞きしました。

き きおりを
一緒に楽しもう！

だ いすきなのは、海と潮風！

み かんが
おいしすぎる～！

き かなや貝もおいしいよ！

き ちょうな
体験しよう！





私たちだからわかる 伊方のよさがあります。

県外から
伊方に
来ました!

景色 & 海の幸が楽しめる 体験クルーズが人気!

近年、サイクリングスポットとして熱い佐田岬半島ですが、海の観光資源も豊富です。一つは佐田岬半島ならではの景色、もう一つは伝統漁法（海士漁や一本釣り、刺し網漁など）で獲る天然の海の幸。それらを同時に楽しめる「漁師・漁船体験クルーズ」が人気を集めており、陸からでは決して分からない海の魅力が発見できます。最新情報は Facebook で発信中!



佐田岬海神会
Facebook

感じながら働く 漁場で海を

潮の流れが速く、海藻が豊富な佐田岬半島周辺の海では、アワビやサザエ、ウニなどの魚介類が豊富なことから、これらを探って生計を立てる海士たちが活躍しています。晴れた日に海に入り、空の青さと山の緑を遠くを感じながら漁をしていると、ストレスを感じないとか。採れたての新鮮な魚介類は町内のレストランや民宿などで味わえるほか、漁協直売所などで購入できます。

\\ここがおもしろい!/
海士漁や魚介類を通して、
伊方の魅力を発信したい!

佐田岬の漁場としての魅力は、瀬戸内海と宇和海の2つの海で漁ができること。新鮮な魚介類はどれも絶品ですが、オススメは「アワビのバター肝醤油炒め」。ぜひ一度ご賞味ください。

潮風と感動が
あなたを待っています!



竹内 義博さん

出身地：徳島県徳島市
2019年4月に地域おこし協力
隊員として移住し、漁船を
使った体験クルーズの企画・
運営などに携わっている。

\\ここがおもしろい!/
漁船ならではの風景や
特別な体験があります!

漁船が疾走する迫力や解放感、爽快感を味わいながら、海からしか見ることができない海岸線の風景や奇岩が堪能できます。海士漁を身近で見たり、漁師さんが仕掛けたかご網を引き上げたり、運が良ければ思わぬサプライズも!!



海の中は新鮮な
食材の宝箱!



尾崎 健史さん

出身地：愛媛県伊予市
大学で水産業を学び、九州
の官公庁に就職。海への想い
が忘れられず、2021年4月
に移住し、海士になる。



玄関を出たら数分で 自然に手が届く幸せ

細長く海に突き出た佐田岬半島は陽当たり、風当たりが抜群で柑橘栽培に最適。温州みかんやせとか、甘平、デコボン、清見タンゴールなど品種も多彩で、糖度と酸のバランスが取れたおいしい生果が育っています。生産者の減少もあり、農園や選果場では全国各地からの“助っ人”の力が欠かせません。「佐田岬の豊かな自然やおいしい柑橘が好きだ!」という人たちが、たくさん集まってきているようです。



＼ここがおもしろい!／

冬場はおすそ分けの連続で
コタツみかんがエンドレス

温州みかんやせとかなどもオススメですが、私のイチ押しは河内晩柑^{かわちばんかん}。中の薄皮を剥くのに一手間かかりますが、毎日食べたくくなります。将来的には柑橘を使った商品開発にも挑戦してみたいですね。



.....
瀬川 美妃さん

出身地：愛知県名古屋市
2021年6月に地域おこし協力隊員として移住し、柑橘農家で温州みかんなどの栽培をサポートしながら勉強中。

＼ビギニングは常に満タン!／



唯一無二のデザインが 映える裂織りに注目!

大きな籠を背負い、山道を往来していた時代、「裂織り」と呼ばれる織物が仕事着や外出着に使われていました。古着の布を細く裂いて織り直し、新しく再生したもので、厚みのある生地が背中を守ってくれたのです。この伝統的な織物を復活させ、まちづくりに生かす取り組みが伊方町で始まっています。

＼ここがおもしろい!／

裂織りは古くて新しい
サステナブルな実用品です!

ボロボロの布が指先の技で蘇り、リサイクルできることに感動し、裂織りに興味を持ちました。使われなくなった着物を別のカタチで継承したり、現代風にアレンジして誰かにプレゼントしたり、可能性は無限です。



.....
橋田 豊代さん

出身地：広島県広島市
2018年6月に地域おこし協力隊員として移住。協力隊卒業後も裂織りの保存・継承などに携わっている。

伝統工芸でリサイクルが
実践できます!





私たち
ベテラン町民
です!

ずっといるからわかる
まちの魅力があります。



地域住民の手で磨かれ 輝きが増す佐田岬灯台

佐田岬灯台を観光資源の柱に、地域づくりに取り組むNPO法人「さだみさき夢希会」では、結成以来、遊歩道や砲台跡の整備、イベントの企画・運営、灯台および周辺の清掃などを通し、地域の宝である灯台を住民の手で磨き続けています。将来的には、高齢者や障がい者の方が気軽に立ち寄れるよう、遊歩橋の整備なども計画。子どもたちの学習の場としての活用も模索しています。

リフレッシュするには
最高の場所!



大岩 幸男さん

出身地：伊方町
伊方在住歴：75年
民宿オーナーで「さだみさき夢希会」の会員。漁港から灯台までの遊覧船を運営するなど、地域づくりを牽引している。

＼ここがおいしい!／

灯台からの夕陽の眺めは、
一年中、感動できます!

魚介や柑橘のおいしさ、風車のある景色なども好評ですが、観光客に一番感動してもらえるのは夕陽。潮の流れが日々変化するので、夕陽の見え方や趣も季節や時間で変わり、何度見ても飽きません。



龍宮城からの贈り物で 本堂が再建された寺

伊方町三崎の高台にある傳宗寺でんそうの創建は元和年間(1615~24)で、天保6(1835)年再建の本堂は町指定文化財。棟札の「龍宮餘財」の文字から、文政13(1830)年に海岸に流れ着いた木材を「龍宮城を建てる時に余った木材」と見立て、再建されたことが推察できます。境内にある推定樹齢約1000年の2本の大クスノキには「日本が戦いに勝つと花が咲く」という言い伝えがあります。

＼ここがおいしい!／

座禅など寺の行事を通じて
歴史や文化を継承したい

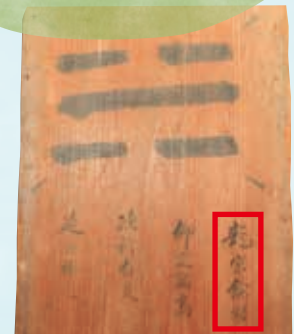
毎月の座禅会で子どもたちを見てみると、回を重ねるごとに姿勢が美しくなり、落ち着きが出てくるのが分かります。子どもたちの成長を見守りつつ、地域の歴史や文化、誇りを伝えていきたいですね。

静寂の中で
座禅を体験
しませんか?



多田 曹溪さん

出身地：山梨県
伊方在住歴：29年
傳宗寺住職として1993年に移住。臨済宗妙心寺派の布教師として全国各地で講演することも多い。



まずは、ちょっと 伊方体験

日帰りで気軽に楽しめる体験ツアーが人気です！



灯台ガイド

世紀を越えて豊予海峡を照らし続けている「佐田岬灯台」の歴史や特徴を分かりやすく紹介します。佐田岬漁港から灯台までは船で約20分。



座禅体験

傳宗寺では毎月定期的に座禅体験を無料で実施中。15分×2回の座禅と法話、茶礼がセットで約1時間。美しい姿勢で座っていると、心が洗われます。



みかん収穫体験

町内の柑橘農園数カ所で温州みかんの収穫が体験できます。農園によってはジュースの試飲もあり、家族で楽しめます。



さきお 裂織り体験

三崎オリコの里「コットン」では、高機たかばたでテーブルセンターやコースターなどが作れます。体験は要予約で、1作品2～3時間程度。

伊方に暮らす

住む

時代にマッチした制度で
移住&定住をサポート!

伊方町は年間を通して温暖で過ごしやすく、安価でおいしい柑橘類や海産物が身近に溢れています。移住者を温かく迎え入れる“ご近所とのほどよい距離感”も好評。空き家は町の移住応援サイト「いかたライフ」で探せます。

<https://www.town.ikata.ehime.jp/site/iju-teiju/>

- 若者定住促進新築住宅建設補助金
- 移住者住宅改修支援事業
- 移住定住促進空き家活用住宅
(通称：空き家活用事業)
- 定住促進奨励金



佐田岬半島には、リアス式海岸特有の地形の中で育まれてきた、独自の暮らし方が根付いています。また四国最西端に位置し、昔から九州とフェリー航路で結ばれていたことも、地域文化や生活習慣に影響を与えています。

働く

ワーケーション感覚で
日常を楽しみながら働ける

傾斜地を生かした柑橘栽培やリアス式海岸での近海漁業などの一次産業が盛ん。どの地域に住んでも自然が豊かで釣り場が近く、ワーケーション感覚で働けます。農業や漁業を一开始するための支援制度も充実しています。

- 伊方町地域おこし協力隊
- 新規就業者支援対策事業
- 奨学金返還支援事業



結婚・子育て

結婚、出産、子育てに
最適な環境があります

40歳以下の町民が結婚した場合10万円分の地域商品券を支給しています。また第3子以降には出生から就学までに現金と地域商品券で総額100万円を支給しているほか、子どもの医療費は18歳まで自己負担分の費用を助成しています。

- 子ども医療費助成制度
- 結婚祝い金支給事業
- 出産祝い金支給事業
- 教育振興補助事業



子どもがのびのび育ちます!

伊方町保健福祉課
こども政策室
篠澤 隆之さん

伊方で暮らすなら？ ^{！そんな！}ギモンにお答え！



自然に囲まれて暮らしませんか？

伊方町総合政策課
まちづくり戦略室
宮本 廉さん

空き家に住むには どうしたらいいですか？

伊方町では町内の空き家を紹介する「空き家バンク」を運営しています。掲載されていない物件も多く、住民の紹介で空き家が見つかることもあります。



マイカーは あった方がいいですか？

伊方町のある佐田岬半島は東西に細長い特徴的な地形をしており、集落や施設が点在しているため、マイカーでの移動が便利です。マイカーがない方は、町内を巡回する「地域巡回バス」をご利用いただけます。

保育所には何歳から 入所できますか？

町内には6つの保育所があり、いずれも6カ月から入所できます。入所の条件として、入所日時点で町内在住の児童で、保護者が保育できない理由が必要ですので、事前にご確認の上、お申込みください。

農業をしたいのですが、 どうすればいいですか？

町が地元「A」と協力し、ゼロから農業を始める方をバックアップする「新規就農支援制度」があり、要望に応じて「短期研修」「実践研修」などが選択できます。研修期間中に補助金を支給するほか、技術的なサポートも行います。

起業したいのですが、 支援制度はありますか？

「伊方町創業・起業支援事業」という補助金制度が利用できます。町内で新たに創業・起業する方に対し、創業・起業に必要な経費の一部を助成する制度で、条件により最大300万円を補助します。

一時預かり保育は、 どのようなときに利用できますか？

町内在住で保育所に通っていない未就学児が対象になります。利用する理由が保護者の仕事や通院などの場合は最大10日/月、リフレッシュなどの場合は最大5日/月まで利用できます。

普段の買い物には、 どのような施設がありますか？

日用品の買い物は、地元の小売店やコンビニなどをご利用いただけます。



仕事はどうやって 探せばよいですか？

愛媛県の公式求人・移住総合情報サイト「あのこの愛媛」をご覧ください。
<https://ano-kono.ehime.jp/>



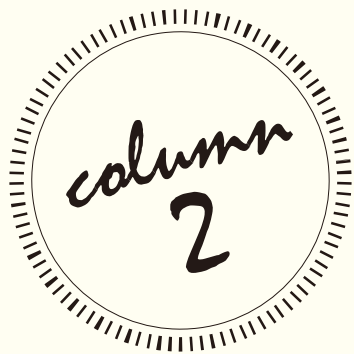
子どもが病院にかかるときは どのような助成が 受けられますか？

子どもが18歳になって最初に迎える3月末日まで、通院、入院費用の自己負担分を助成します。

移住・定住 PR動画

伊方町移住応援サイト「いかたライフ」では、まちの魅力を紹介したPR動画を公開中。Uターン・Iターン経験者が、生活や子育て環境など田舎暮らしの良さをPRしています。





風のエネルギー

自然とともに生きる、持続可能な未来をめざして

年間を通じて強い風が吹き抜ける佐田岬半島。この恵まれた風力資源を活用するために、尾根沿いには風車が設置され、二酸化炭素を排出しないクリーンな電気を発電しています。



伊方町の風車

MAP F-6

みさき風の丘パーク

佐田岬半島の中で最も西の風車群がある公園。風車の間の道路を車で走り抜けるほか、真下から風車が回る姿をじっくり眺められます。



MAP G-15

せと風の丘パーク

佐田岬半島の尾根伝いに並ぶ11基の巨大な風車が一望できる公園。一番高い風車は78mもあり、大きな翼が回り続ける様子に美しさを感じます。



360° View!



スマホで見よう!

MAP F-19

二見くるりん風の丘パーク

巨大な2基の風車が間近に見られる公園。子どもにも分かりやすい風車の説明があり、家族で楽しみながら風力発電を学ぶことができます。



持続可能な
エネルギー
風力発電

発電所と風車の数

瀬戸ウィンドヒル発電所	11,000kW (1,000kW × 11基)
三崎ウィンドパワー発電所	20,000kW (1,000kW × 20基)
伊方エコパーク発電所	18,000kW (1,500kW × 12基)
佐田岬風力発電所	9,000kW (1,000kW × 9基)
瀬戸風力発電所	8,000kW (2,000kW × 4基)
伊方風力発電所	1,700kW (850kW × 2基)

発電所 **6**カ所

風車 **58**基

風力発電に必要な環境

安定した風が吹く

発電するには風が必要となるため、安定して風が吹く必要がある。

送電線と接続できる

他の発電施設とつなぐことで安心して電気が使える。

部品を運べる

風車の部品を運べる環境でなければ設置することが困難。

周りに影響を与えない

自然環境に影響を及ぼさない配慮も必要となる。

風車の種類

水平軸風車

パワーが大きく
発電しやすい



垂直軸風車

パワーは小さいが
弱い風でもよく回る



ふるさと、いかた

中村 修二

Syuji Nakamura



カリフォルニア大学
サンタバーバラ校材料物性工学科 教授
昭和29(1954)年5月22日、伊方町大久生まれ。日亜化学工業株式会社(徳島県阿南市)在籍時の平成5(1993)年に青色発光ダイオードの開発製品化に成功。平成26(2014)年、赤崎勇名城大学終身教授、天野浩名古屋大学教授と共同でノーベル物理学賞を受賞。

地元・伊方町での海の思い出

生まれ育った伊方町大久(旧瀬戸町)にある磯には、春から夏にかけて毎週のように行っていました。

家族や親戚の30人近くで出かけては、海鮮バーベキューを楽しんでいました。子どもたちはつぼ貝やサザエなどの貝類を捕り、大人たちは海に潜って魚を捕ってくれました。夏にはタコなども捕れましたね。新鮮な魚貝は本当においしかったです。子どもの頃の思い出の味ですね。だから、今でも「焼き魚」が一番の好物です。数年前の夏にプライベートで家族と大久に帰ったのですが、佐田岬半島の魚は、いつ食べても本当においしいですね。普段は、学校が終わるとすぐ近所の友達と家の前にある波止場に行って釣りをしていましたね。たまに大きいのが釣れたときは、母親に晩ご飯のおかず調理してもらっていました。

今思えば、子どもの頃に自然に触れることで探究心が芽生え、科学に興味を持つようになりました。海を眺めながら、「この海はどこまでつながっているのだろう?」「夕焼けはなぜ綺麗な赤色なんだろう?」「魚はなぜ海の中で生きていけるんだろう?」とよく考えていました。



故郷との関わりと現在の研究

平成27年2月5日に伊方町の町民栄誉賞をいただきました。そのときに記念碑を作っていただいたり、帰郷したときの資料などを展望台内に掲示していただいたりと本当に感謝しています。

また、大久展望台では、私の研究成果を代表するLEDを使ってライトアップが行われています。夕方から七色に変わりながら展望台を照らす様子は、幻想的で観光客に人気があると聞いています。

現在、私はカリフォルニア大学で、青色レーザーの光で遠くを照らすための研究を行っています。例えば車のヘッドライトにLEDを使うと、300mが限界です。これが青色レーザーなら1km先も可能になるんです。将来的に、漁師や航海のため佐田岬灯台などに応用できればいいと考えています。

愛媛の美味しい魚を
全国に紹介してください

職業柄、学会などで世界各地へ赴くことが多いのですが、アメリカやヨーロッパなどは本当に魚料理が少ないです。全世界で見ても、これだけ多種多様な魚が捕れて食卓に上がるのは、日本だけだと思います。その日本の中でも、豊後水道の豊潤な海の恵みをうけた佐田岬半島の魚は特においしい!広報活動などを通じ、この愛媛・伊方町のおいしい魚を日本全国に発信してってもらいたいですね。そうすることで、おいしい魚と、佐田岬の美しい景色をもっと多くの観光客に知っていただき、伊方町を訪れてもらえると嬉しいですね。

このインタビューは「Eのさかなvol.10」(2018年)発行の記事に加筆修正を加えたものです。

生誕の地記念碑



アジ・サバ

三崎漁港に水揚げされたアジやサバは、鮮度を保つために独自の処理をしてから出荷します。



佐田岬海鮮しゃぶ

旬のアジやサバ、タイ、ハマチ、伊勢エビなど、刺身でもおいしく食べられる新鮮な魚介をしゃぶしゃぶにしました。焼いた魚の骨やアラを出汁に使っています。



宇和海ちりめん

宇和海で大量に水揚げされる新鮮な小魚（いわしの稚魚）を浜茹でにした最高級品。土産物として人気です。



じゃこカツ

魚のすり身にニンジンやゴボウなどの野菜を加え、パン粉をつけて油で揚げたコロケ風のソウルフード。



二色しらす丼

“釜揚げしらす”と“生しらす”の2種類を使ったちょっと贅沢なしらす丼。2つの食感が同時に味わえます。



アワビ・伊勢エビ

伊予灘、宇和海、豊予海峡の3つの海に囲まれた伊方町には好漁場が多く、新鮮でおいしい魚介類が豊富に水揚げされます。



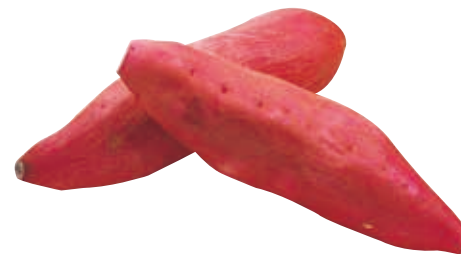


海産物加工品

ちりめんや佃煮、乾物、菓子など海産物を使った加工品も充実。町内の道の駅や小売店のほか、通販でも購入できます。

瀬戸金太郎芋

伊方町瀬戸地区の土壌はサツマイモの栽培に適した良質な赤土で、甘くておいしい金太郎芋が栽培されています。



温州みかん・清見タンゴール

海沿いの傾斜地に築かれた段々畑では、太陽の光と潮風を浴びながら温州みかんや清見タンゴールなどの柑橘がおいしく育っています。



新鮮な魚介類や段々畑で育った柑橘、それらを原料にした加工品など、佐田岬は一年中、おいしいもので溢れています。



柑橘マーマレード

伊方町で育った旬の柑橘を皮ごと贅沢に使い、マーマレードにしました。無添加・低糖・手づくりこだわった自慢の逸品です。



地酒・焼酎

伊方杜氏の酒造りの伝統を受け継ぐ地酒や、瀬戸金太郎芋を使った芋焼酎「瀬戸の金太郎」があります。

うにまんじゅう

白餡に卵黄と佐田岬で採れたパフンウニを練り込んだ「ウニ餡」を、ミルク風味の生地で包み、焼きあげた地元の銘菓。



柑橘ジュース

紅まどんな、せとか、甘平など的高级柑橘を丸ごと搾った果汁100%のストレートジュース。甘みと酸味のバランスが絶妙で贈答品にも最適。



郷土の歴史・文化

佐田岬の特異な地形と豊かな自然に磨かれた独自の歴史・文化が、それぞれの地域の誇りとして継承されています。



三崎のアコウ (国指定天然記念物)

クワ科の常緑高木で現存4本のうち最大のものは幹周(根廻り)約14m。生育の北限になるため、国の天然記念物に指定されています。

MAP G-8



旧正野谷棧橋 (国登録有形文化財)

豊予要塞の軍事遺跡の一つで長さ約50m、幅約5mのコンクリート造りの棧橋。第2砲台の建設資材を陸揚げするために造られました。

MAP G-3



旧三崎精錬所焼窯 (国登録有形文化財)

明治33(1900)年に設置された精錬所。現在は多数の焼窯跡が残るほか、精錬過程で出た“からみ”が海岸に散在しています。

MAP H-6



須賀の森 (県指定天然記念物)

須賀の森は長い年月をかけて潮や風が運んだ砂や石でできた地形で、八幡神社の境内にもなっており、ウバメガシが400本以上群生しています。

MAP E-17



ナギ (県指定天然記念物)

真言宗の古刹、法通寺の境内にそびえるナギは樹高約19m、幹囲約3.5m、樹齢約700年。毎年5月下旬から6月上旬に開花します。

MAP F-23



子持勾玉 (町指定有形文化財)

三崎・中村遺跡から出土した古墳時代中期の勾玉。南予地域では現在唯一の出土例で、祭祀用と考えられています。 **MAP G-8**



三机古絵図 (町指定有形文化財)

三機の町を中心に描いた藩政時代の絵図で、大きさは2.7m×2.6m。当時の三機の繁栄ぶりがしのべられます。 **MAP F-16**



木造不動明王立像 (町指定有形文化財)

法通寺護摩堂の本尊で平安時代末期の作。文明6(1474)年の地震で海上から現れたと伝えられています。



傳宗寺本堂 (町指定有形文化財)

間口9間(16.4m)、奥行き7間(12.7m)。海から流れ着いた木材で建てられたと伝えられています。天保6(1835)年の建築。 **MAP G-8**



宮の森 (町指定天然記念物)

小島地区の東に広がる森で、昔は天満宮の鎮守の杜でした。現在はタブノキやシイの巨樹が群生しています。 **MAP E-14**



クロキヅタ (町指定天然記念物)

全国でも数カ所で見られない貴重な海藻。昭和29(1954)年に地元の植物学者・野村義弘氏により確認されました。 **MAP G-23**

町見郷土館

MAP F-19



旧町見中学校の校舎を利用した郷土資料館。館内には四国では珍しい裂織りの仕事着や南予の祭りを彩る牛鬼など、地域住民が暮らしの中で使ってきた農具や民具、生活資料など約4,500点を収蔵し、テーマに沿って展示しています。

**町見郷土館
サポーター**

佐田岬みつけ隊



地域住民が中心となり、博物館を支え、育てる4つの活動(学習支援・企画展示・調査研究・収集保存)を学芸員と一緒に展開しています。独自の調査に基づいた企画展や講演会・見学会なども積極的に実施しています。

四季の祭り・伝統文化

脈々と受け継がれてきた伝統行事や祭りに加え、時代に即したイベントがまちに活気をもたらします。



きららまつり (伊方)

道の駅・伊方きら館を会場に、地元や姉妹町村の北海道泊村の特産品を販売するほか、もちまき、テレビジャンケンゲーム、和太鼓 (伊方堂々太鼓) の演奏などで盛り上がります。



はなはな祭り (三崎)

「佐田岬はなはな」を会場に、太鼓の演奏やもちまき、ステージイベント、海鮮バーベキューなどで盛り上がります。フィナーレの花火は圧巻。



こいのぼり祭り (三崎)

大きなこいのぼりが空を泳ぐ中で、出店やイベントが行われ、風流を感じながら、家族で楽しめます。



佐田岬ふるさとウォーク

自然と触れ合いながら日本一細長い佐田岬半島をウォーキング。最長約46.5kmのコースのほか、体力に合わせてコース(距離)が選べます。

春

Spring



きなはい伊方まつり (伊方)

毎年7月開催の伊方町最大の夏祭り。和太鼓の演奏や子どもの相撲大会、活魚のつかみどり、食の祭典などが催され、伊方湾に打ち上げられる花火がフィナーレを飾ります。

夏

Summer



瀬戸の花嫁まつり (瀬戸)

毎年8月に開催される夏のイベント。ドレスに身を包んだモデルが登場するブライダルショーのほか、黒毛和牛のバーベキュー、相撲大会、花火大会などが行われます。



きそん(節) (伊方)

天明年間(1781~1789)に始まったとされる盆踊り。歌は必ず「出石山ほど高い山ないが」で始まり「千秋万来思いごと叶うた」で終わります。



佐田岬半島の初盆行事

地域ごとに行われる初盆行事は、個性的かつ多様性に富んでいます。平成22年には文化庁の「国の選択無形民俗文化財」に選ばれました。



しゃんしゃん踊り（瀬戸）

江戸時代にこの地域で相次いだ疫病や災害を治めるために始まった踊りで、300年以上受け継がれています。歌に出てくる「しゃんしゃん」からこの名が付けられました。



伊方秋祭り（伊方）

10月中旬の土日に一斉に行われる秋祭りでは、多くの家が鉢盛などの料理を準備して親戚や知人を招き、親交を深めます。



瀬戸芸能文化祭（瀬戸）

唐獅子や五ツ鹿などの郷土芸能、太鼓やブラスバンドの演奏、絵画や陶芸、生け花などの作品展示などを行う地域の総合文化祭。バザーや特産品の販売もあります。



三崎秋祭り（三崎）

毎年10月8・9日、江戸初期から続く伝統行事「牛鬼と四ツ太鼓の練り」が行われます。全長約10mの「牛鬼」と約10×4mの「四ツ太鼓」が蹴り上げ合戦を繰り広げます。



二名津お伊勢様（お伊勢踊り）（三崎）

毎年2月10・11日の春祭りで、烏帽子に大紋服を着けた神主役の若者2人をはじめ、総勢40人程が参加して行われます。その起りは弘安の役（1281年）だとされています。



佐田岬マラソン（瀬戸）

佐田岬半島の豊かな自然と美しい景色を楽しみながら走るマラソン大会。地元特産品が当たる抽選会やご当地グルメが食べられる昼食も好評。



佐田岬ワンダーイルミネーション

本庁前の駐車場を舞台にした光の祭典。光のアーチトンネルやイルミネーションタワーはSNS映えする撮影スポットとして人気。点灯式ではミニコンサートが催されます。



佐田岬レンタサイクル

伊方町では八幡浜市と合同で、佐田岬レンタサイクルを町内3施設で実施しています。豊かな自然の中で、おもいっきり風を切りながら楽しめるサイクリングコースが多数あります。



伊方のむかし話



おらとこの山

昔、佐田岬の先端の三崎村のとても背が高い男が、出稼ぎ先の都会の飯場でみんなと一緒に酒を飲んでいました。するとお国自慢が始まり、九州の男が「誰が何と言つても、山なら日本一の噴火山、阿蘇山だ」と得意顔で言いました。すると駿河の男が「馬鹿を言え、山と言ったら日本一の富士山よ」と鼻を高くして言いました。そして「お前のところの自慢の山は何だ」と三崎村の男に尋ねました。

日本一長い佐田岬の先端の村ですから、自慢するような山はありません。それでも男はとっさに「俺のところの山は13里もあり、とても長くて細い山なので、風が吹いて倒れないように今は横に寝かせ

加周池の大がに

昔、九町に「九町池」という面積13町歩の沼があり、大きなかきがすんでいました。ところが長い年月のうちに、近くを流れる新川から土砂が流れ込み、沼はだんだん狭くなり、かにも壘8枚くらいの大ささになったため、九町池にすめなくなりました。

そこである年の大晦日の夜に、海を渡って隣の地区の「加周池（現在の亀ヶ池）」（面積20町歩）へ移り、池の主であった「えんこ」と交替してもらいました。大がには広々とした池の主になった嬉しさのあまり、よく池の中を泳ぎ回ったため、池を渡って野良仕事に行く百姓たちの舟が、たびたび転覆するようになりました。困っ

ている。俺の村はその先端にあり、九州がすぐそこに見えている」と言つて、ごろんと横になりました。するとあまりにも男の背が高いので、頭が部屋の外に突き出て、顔は遠くにかすんで見えなかったそうです。



た百姓たちはお宮の神主さんに頼み、大がにを池の底深くに封じ込んでもらいました。

現在でもこの封じ込みが解けないようにと、毎年、お祭りには「牛鬼」がこの池を渡っていくならわしになっています。



■出典

〈加周池の大がに〉伊方町誌 〈おらとこの山〉愛媛の伝説 昔話・トッポ話 案内(秋田忠俊 著、伊予民俗の会 発行)より一部要約

基本構想 伊方町まちの将来像

伊方町は、佐田岬半島の自然・伝統・文化・風土、そして、大切に受け継がれている“助け合いの精神「合力（こうりく）の心」”を尊び、豊かな個性をさらに磨き、町民が生き生きと輝くまちを、そして、訪れた人が元気に輝くまちを目指します。



計画の期間

基本構想の期間は、平成28(2016)年度から令和7(2025)年度までの10年間です。後期基本計画は、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間とします。大幅な社会情勢の変化や国の動向に対応して、必要に応じて適宜、見直しを行います。

SDGs

後期基本計画では、主要な施策ごとに SDGs の 17 のゴールと関連づけ、SDGs の理解と、住民及び事業者との連携を深め、総合計画・地方創生・SDGs を一体的に推進していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



後期基本計画



保健・医療・福祉

絆で創る、健康長寿と町民総活躍のまちづくり

SDGs



保健・医療・福祉を推進する基盤として、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という従来の関係を超えて、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現へ向けた取り組みを進めていきます。

施策1-1 健康増進活動の推進

生活習慣病予防が健康に関する重要課題であることから、若いうちからの栄養バランスのとれた食生活などの普及を図ります。また、高齢者世帯の増加を踏まえて、毎日の食事を楽しむことや口腔ケアの定着をめざします。

施策1-2 医療体制の充実

診療所間で連携することで在宅医療などの積極的な推進を図り、患者ニーズに対応した医療の提供及び診療所経営の安定化を図ります。また、安定的な医師の確保と身近な診療所での質の高い安心・安全な医療の提供に努めます。

施策1-3 結婚・出産・子育てへの支援の充実

少子化が進む中、町内で、子どもを産み、安心して育てていける環境づくりのための子育て支援の充実が求められています。



施策1-4 高齢者福祉の充実

高齢化が進み、限界集落もみられる本町では、健康を維持し、生きがいを持って、誰もが安心して地域で暮らしていけるまちづくりに努めます。

施策1-5 障がい者福祉の充実

障がい者の生活の自立に向けて、支援が必要な対象者が通所できるよう、関係者と連携し支援を継続し、総合窓口の設置、経済支援の継続を進めていきます。

施策1-6 地域福祉の充実

保健・医療・福祉関係機関の連協強化を図り、また高齢者、障がい者、児童等の縦割りの弊害をなくし、横断的で総合的な支援体制の構築や支援拠点を整備していきます。生活困窮者へも積極的な支援に努めます。



基本目標

2

社会基盤

生活基盤が整った、快適なまちづくり

快適な暮らしを支える基盤であり、産業の振興に大きく寄与する社会インフラ（社会基盤）への効率的な事業体制を構築し、環境整備を進めます。また、「現在及び将来の町民にとって良好な環境の確保」を目的とする環境基本条例の浸透を図ると同時に、自然と暮らす“真の豊かさ”を実感できる定住環境を目指します。



SDGs



施策2-1 生活環境の充実

可燃ごみの減少とCO₂の排出抑制、中間処理の効率化と再資源化を図っています。一般廃棄物最終処分場の整備を進める一方、資源循環型社会の実現に向けて、引き続きごみの減量化や資源ごみのリサイクルに取り組みます。

施策2-2 道路・河川の整備、交通環境の充実

地域住民の利便性の向上を図るため、また長期的な交通の安全と安心を図るために主要な道路の整備や橋梁の修繕を実施し、公共施設・社会インフラの老朽化に伴う維持管理・更新を計画的に実施します。

施策2-3 上・下水道の整備

上水道施設の耐震化、下水道施設のライフサイクルコストの削減や計画的な維持・修繕を継続するなど、定住環境に不可欠な上・下水道施設の長寿命化及び設備の更新に努めていきます。

施策2-4 港湾・漁港機能の充実

港湾施設のライフサイクルコストの削減や計画的な維持・修繕を継続します。三崎港については、観光・交通・物流・産業等の場として、地域に望ましい体系的なネットワークの形成を図り、港湾機能がフルに発揮できるよう整備を進めていきます。



日頃から町民同士の支えあいを基盤とする防災・減災対策を進めるとともに、危機管理体制の強化などにより、災害に強く、安心して暮らすことのできる定住環境を目指します。また、自主防災活動の支援を進め、避難体制の強化に重点をおいて推進します。交通安全、防犯にも継続して取り組みます。

防災・減災

災害に強い、安心安全なまちづくり

施策3-1 消防・防災体制の充実

広域消防体制の整備を進め、原子力防災対策の強化、広域避難を円滑に行うための体制強化を図ります。また、日頃から地域と一体となった防災活動の取り組みを行い、災害時の減災対策を地域と連携して推進します。

施策3-2 交通安全・防犯体制の充実

生活の安全確保、また被害を未然に防ぐ防犯や事故防止対策のため、町民、地域、関係機関との一層の連携を進めます。消費者問題に対しても、適切・迅速に救済する体制を構築し、被害の未然防止・拡大防止を図ります。



基本目標 4

移住・定住

定住の希望を叶える、住みよいまちづくり

SDGs



社会インフラ整備は、快適な暮らしの実現に向けて計画的に推進するとともに、より暮らしやすい定住環境を目指します。公営住宅の計画的な改修や住宅供給の拡充を通じて住環境を整え、移住を実現する受け入れ体制の構築により、転入、移住、定住を実現できる環境づくりを推進します。

施策4-1 住環境の充実

地域巡回バスの利便性向上を図り、定住環境としての生活道路網の整備と交通機関の充実を推進します。良好な生活空間を維持し、定住人口の減少抑制につながる空き家対策にも取り組みます。

施策4-2 U・I・Jターン移住促進

U・I・Jターン向けに体験住宅や体験メニューの整備を進め、住宅用地の確保、公営住宅の改修、空き家を活用した民間住宅の確保など、住宅政策を計画的に進めます。地域おこし協力隊の取り組み、まちづくり人材育成塾の開設にも取り組みます。





銘柄産地育成（ブランド化）による農業の活性化、アワビ種苗の生産・放流による「つくり育てる漁業」の推進等、産業の活性化と雇用拡大を進めます。農・漁・商工・観光が一体となって、産業同士の相乗効果による地域産業全体の成長と安定化を実現し、事業環境の創出を図ります。

施策5-1 農業の振興

後継者の育成と農業経営の集団化（法人化）による生産体制の強化を図り、農地の減少をくい止める優良園地の維持と農産物の高付加価値化を進めます。また、新規就業にかかる支援制度の周知や農業の魅力発信にも努めます。

施策5-2 水産業の振興

年間漁獲量の減少を補う加工品開発と販路拡大への取り組みを行い、後継者育成とつくり育てる漁業の一層の推進を図ります。また、新規就業にかかる支援制度の周知や漁業の魅力発信にも努めます。

施策5-3 観光・商工業の振興

人口減少と高齢化による町内の労働人口の減少や地域購買力の低下を補うためにも、築き上げた連携体制や拠点を活かし、体験型観光（ツーリズム）を軸に観光・交流人口の拡大と町の知名度アップを図ります。



産業・観光

農・漁・商工・観光が一体となる、
産業全体が成長するまちづくり

基本目標 6

教育・スポーツ・文化

「ふるさと愛いっぱい」の人材（人財）が育つまちづくり

SDGs



「地域とともにある学校」を目指し、家庭・地域と一緒に次代を担う人材（人財）の育成、郷土をより深く愛する心を育てる教育の推進に努めます。また、児童生徒にとってよりよい学校環境を検討し、少子化に対応した活力ある学校づくりに努力します。町民が主体的に生涯学習や生涯スポーツに取り組める環境の整備と活動の活性化に努力し、地域の新しい文化創造につながる活動を推進します。

施策6-1 学校教育の充実

確かな学力を持ち「知・徳・体」のバランスのとれた教育、キャリア教育など未来への目的を考える教育等を推進します。また、英語教育や ICT 教育の充実を図り、Society5.0等激しく変化する社会をたくましく生き抜く人材（人財）の育成に努めます。

施策6-2 生涯学習・生涯スポーツの活性化

各世代の要望に基づく学習活動の活性化と心身の健康増進につながる生涯スポーツの普及を図り、町民の主体性を発揮する機会の拡大に取り組みます。また、自治公民館や公民館の活動を推進し、生涯学習活動の充実による地域課題の解決や次代の人材（人財）づくりに努めます。

施策6-3 伝統文化の継承と発展

地域文化財の適切な保存と活用に努め、佐田岬の歴史や文化を身近に感じられる活動を推進し、文化継承への興味を高めるとともに、継承に意欲がある人材（人財）、専門性を持つ人材（人財）の育成に努めます。





住民協働・行財政

信頼と協働で創る、全員参加のまちづくり

すべての町民が正しい人権意識を備えられるよう、国籍や性別などを超えて男女共同参画、国際交流・地域間交流、地域活動を推進します。また、自治組織の充実と地域活動の活性化を図り、地域で支えあう力を基盤とする協働のまちづくりを推進します。財源確保に不断の努力を払い、「現在及び将来の町民」の行財政運営を推進します。

施策7-1 人権尊重・男女共同参画社会の推進

地区別人権・同和教育懇談会、また研修会や学習活動への支援を通して、あらゆる差別問題解消のための啓発を図ります。男女共同参画社会の実現を目指して、啓発活動や審議会等における女性の積極的な登用等を推進します。

施策7-2 地域間交流・国際交流の推進

青少年の交流事業などを通じて、まちの将来の発展及び幅広い見識や行動力ある人材（人財）を育成します。海外との交流への支援により、町民の国際感覚の養成にも努めます。

施策7-3 協働のまちづくりの推進

様々な地域活動の拡充、町内外との交流活動の活性化、地域意見の反映などに一層取り組み、町民の町政参画や地域活動への意欲の維持・向上を図り、地域の力を活かす協働体制の強化を推進します。



行政・議会



「よろこびの風薫るまち 伊方」の実現を目指したまちづくり

平成 17 年 4 月に現在の伊方町が誕生し、新しいまちが目指す方向として策定された「伊方町総合計画」は、平成 28 年度から第 2 次計画に移行しました。その中で掲げた将来像「よろこびの風薫るまち 伊方」の実現に向けたまちづくりは、2つのテーマに沿って進められています。1つは「みんなが未来を選び、誰からも選ばれるまちを目指して」。佐田岬半島の伝統文化を尊び、町民・地域・行政が一体となって自分たちの意志で未来を切り拓くまちづくり、そして、輝く伊方町を国内・国外の人が選ぶようになるまちづくりに取り組みます。もう1つは「暮らす町民や訪れる人々が幸せを実感できるまちを目指して」。佐田岬半島の伝統文化から醸し出される地域の魅力を活かし、暮らす人々と訪れる人々の誰もがしあわせを実感できるまちづくりに取り組んでいます。



後期基本計画では「将来像に向けた7つの基本目標」を設定

「伊方町第2次総合計画」（平成28年度～令和7年度）は、現在、後期基本計画が進行中で、「将来像に向けた7つの基本目標」ごとに23の推進施策が進められています。

【将来像に向けた7つの基本目標】

- ①保健・医療・福祉 ～絆で創る、健康長寿と町民総活躍のまちづくり
- ②社会基盤 ～生活基盤が整った、快適なまちづくり
- ③防災・減災 ～災害に強い、安心安全なまちづくり
- ④移住・定住 ～定住の希望を叶える、住みよいまちづくり
- ⑤産業・観光 ～農・漁・商工・観光が一体となる、産業全体が成長するまちづくり
- ⑥教育・スポーツ・文化 ～「ふるさと愛いっぱい」の人材（人財）が育つまちづくり
- ⑦住民協働・行財政 ～信頼と協働で創る、全員参加のまちづくり



町長：高門 清彦



副町長：濱松 一良



教育長：中井 雄治



議長：小泉 和也

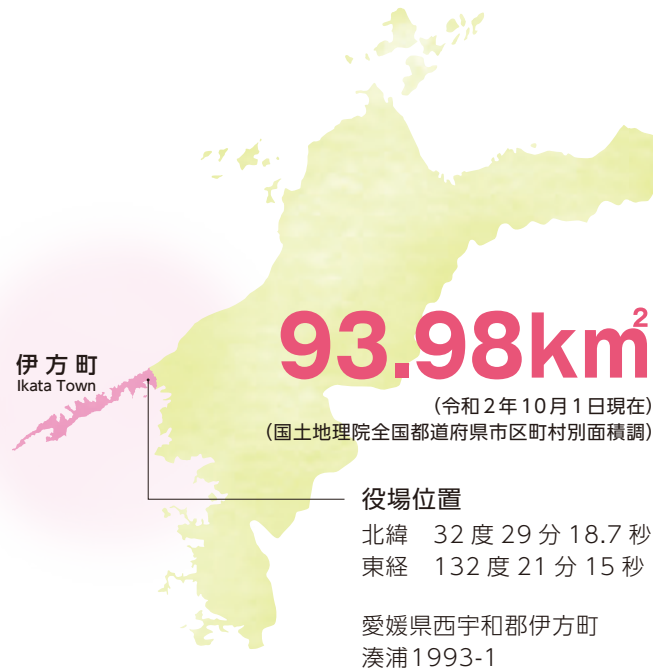


副議長：清家 慎太郎

（令和3年4月30日現在）

地勢

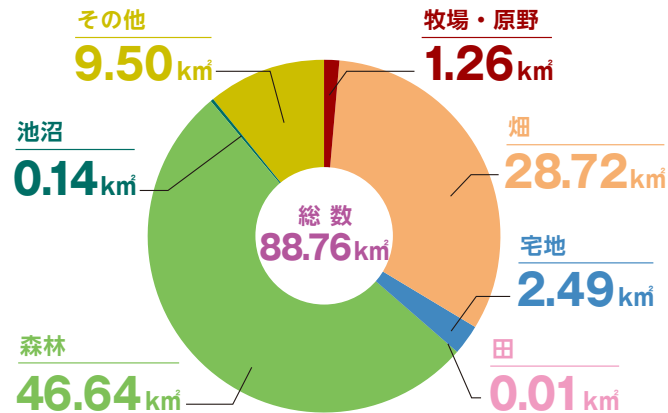
佐田岬半島の中央には半島特有の200～300メートル級の低い山地が東西に連なっています。伊予灘に面する山並みの北側は急傾斜地が多く、変化に富んだリアス式海岸を形成しています。宇和海に面する南側には美しい砂浜が広がり、岬と入江の交差する風光明媚な景観が楽しめます。年間平均気温は16～17度と著しい寒暖の差がない、温暖な海洋性気候に恵まれています。冬季には北西の季節風が強ク吹き、夏季には台風の襲来を受けることもあります。海と山の豊かな自然に恵まれた町です。



■ 地目別土地利用面積

町内の大部分が佐田岬半島にあり、中央には半島特有の低い山地が東西に連なっているため、総面積の半分以上が森林になっているほか、傾斜地を利用したみかん畑などの耕作地が約1/3を占めています。平地はわずかしがなく、宅地などの集落は半島の北側（伊予灘側）と南側（宇和海側）の両海岸部に広がっています。また大きな河川はありませんが、県下最大の潟湖である亀ヶ池を有しています。

(令和3年1月1日現在)



保育所数 / 園児数

(令和3年4月1日現在)



伊方保育所	68人
九町保育所	15人
大浜保育所	11人
三机保育所	15人
大久保育所	8人
三崎保育所	30人

小・中・高校数 / 児童・生徒数

(令和3年4月1日現在)

■ 小学校



■ 中学校



■ 高校

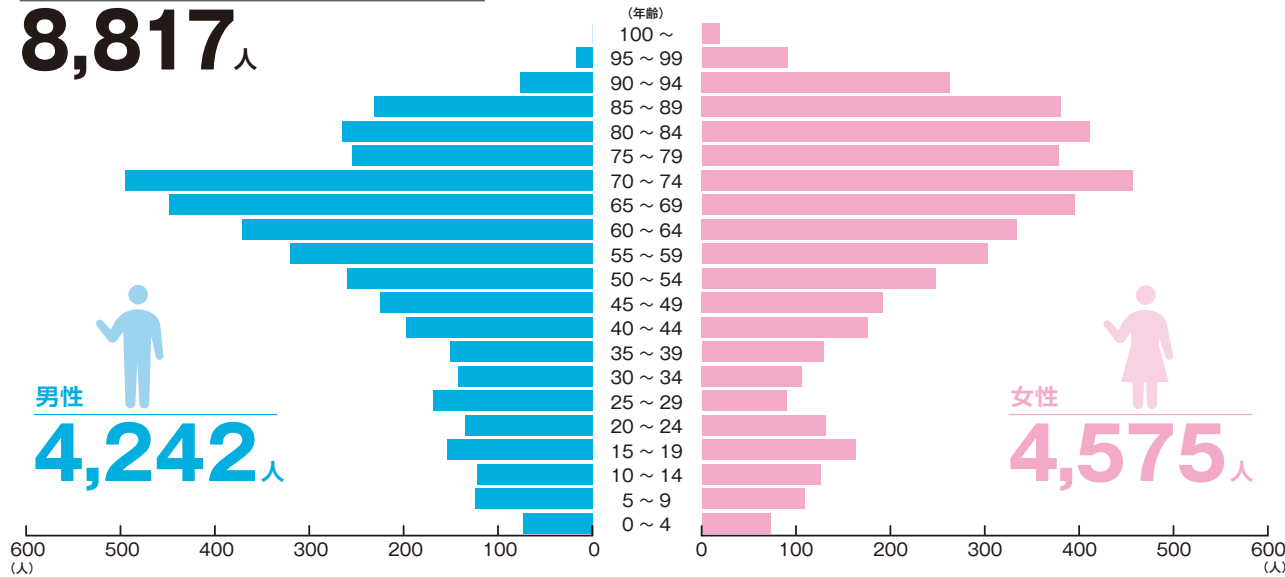


人口

年齢別人口

総数 (住民基本台帳人口 令和3年3月31日現在)

8,817人

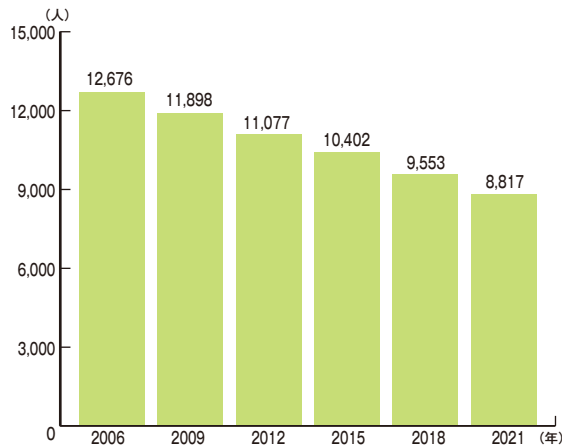


男性 **4,242**人

女性 **4,575**人

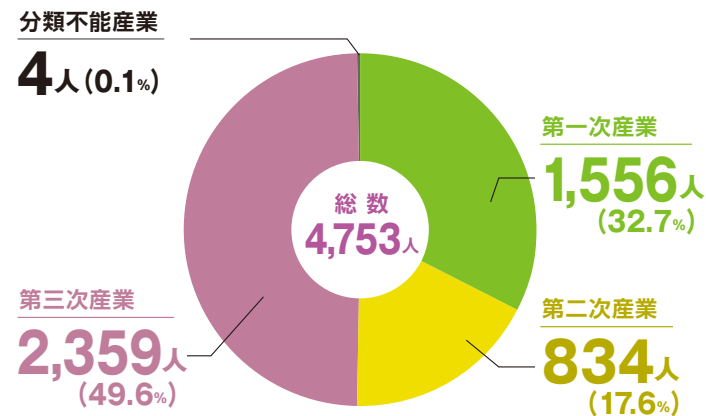
人口の推移

(各年3月31日現在)



就業人口

令和2年国勢調査 (令和2年10月1日現在)



ごみ処理量

(令和3年3月31日現在)



■ 1日当たりの焼却量

5.451トン



■ 1人1日当たりの排出量

802グラム



■ 1日当たりの排出量

7.071トン



■ リサイクル率

14.7%

介護保険サービス認定者数

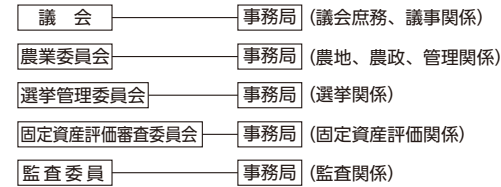
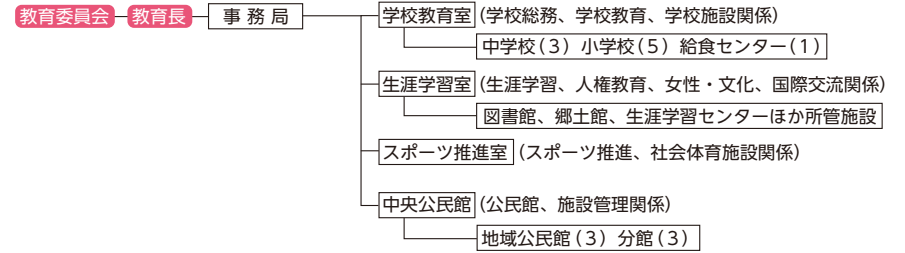
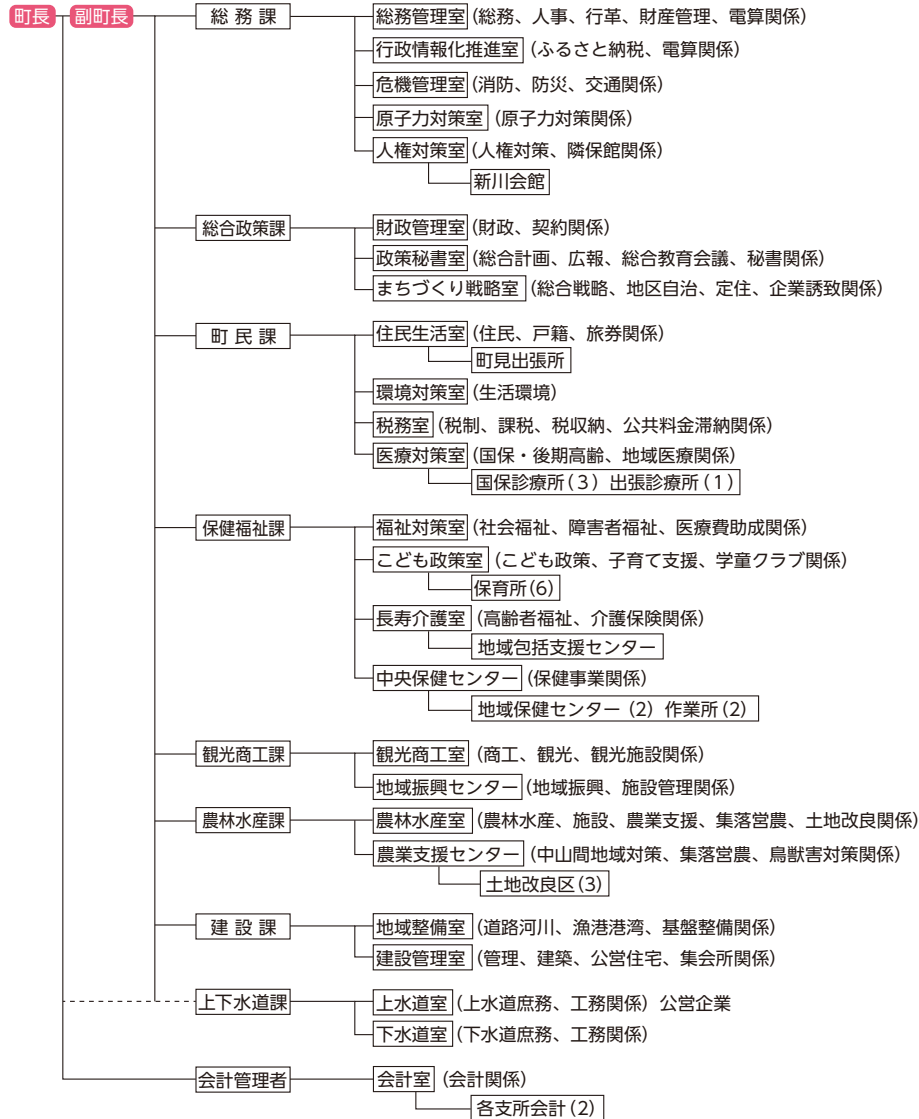
(令和3年12月31日現在)



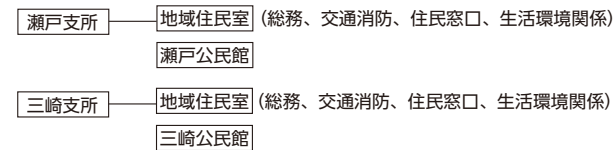
行政

伊方町行政機構図 (令和3年4月1日)

【本庁】



【支所】



議会

(令和4年3月1日現在)

議長：小泉 和也

副議長：清家 慎太郎

■ 議会運営委員会 (定数6人)

委員長	菊池 隼人
副委員長	山本 吉昭
委員	加藤 智明
委員	高月 芳人
委員	木嶋 英幸
委員	吉川 保吉

■ 総務文教厚生常任委員会 (定数7人)

委員長	高月 芳人
副委員長	菊池 隼人
委員	田村 義孝
委員	吉川 保吉
委員	阿部 吉馬
委員	小泉 和也
(欠員1人)	

■ 産業建設常任委員会 (定数7人)

委員長	木嶋 英幸
副委員長	加藤 智明
委員	末光 勝幸
委員	清家 慎太郎
委員	福島 大朝
委員	山本 吉昭
委員	中村 敏彦

庁舎



本庁

位置	愛媛県西宇和郡伊方町 湊浦1993番地1 tel / 0894-38-0211(代) fax / 0894-38-1373	構造	鉄筋コンクリート造6階建	内訳	1階	1,115.29m ²	5階	905.78m ²
	建築面積		1,226.55m ²		2階	914.96m ²	6階	1,132.88m ²
			延床面積		6,411.84m ²	3階	1,101.26m ²	塔屋1
					4階	1,110.95m ²	塔屋2	65.36m ²



瀬戸支所

位置	愛媛県西宇和郡伊方町 三机乙3003番地6 tel / 0894-52-0111(代) fax / 0894-52-0570	構造	鉄筋コンクリート造3階建	内訳	1階	587.50m ²
	建築面積		772.10m ²		2階	586.00m ²
			延床面積		2,123.67m ²	3階
					塔屋	28.45m ²
				付属	301.31m ²	



三崎支所

位置	愛媛県西宇和郡伊方町 三崎692番地 tel / 0894-54-1111(代) fax / 0894-54-1988	構造	鉄筋コンクリート造2階建	内訳	1階	1,120.48m ²
	建築面積		1,213.74m ²		2階	954.59m ²
			延床面積		2,078.31m ²	付属

新伊方町と旧町のあゆみ

旧伊方町 旧瀬戸町 旧三崎町 伊方町

	昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年代	平成元年～平成17年
伊方	30年 伊方村と町見村が合併して伊方町が誕生 36年 伊方・町見両森林組合が合併、伊方町森林組合設立／伊方町商工会設立／伊方上下水道が町営に 37年 伊方体育振興協会結成 39年 伊方町養蚕、畜産センター落成／町見体育振興協会結成 	40年 堂々山に展望台を設置、公園を整備／町制施行10周年記念式典挙行 41年 伊方町商工会館落成 43年 伊方町誌発刊／伊方町中央公民館落成 44年 明治百年記念公園完工、記念式典及び総合落成式挙行／農事センター落成／三崎～佐賀関間に国道九四フェリー「豊予丸」就航 町議会において原子力発電所誘致を決議、誘致特別委員会を設置 45年 役場庁舎落成 48年 四国で初の養豚汚水処理場完成	50年 町制施行20周年記念式典挙行、町の木・町の花を制定 51年 第1回伊方町文化祭開催 52年 伊方発電所1号機初臨界 54年 「ナギ」県指定天然記念物となる 55年 伊方武道館完成 57年 伊方町民会館が落成 	60年 町制施行30周年記念式典挙行 61年 伊方町情報化センター設置	元年 南予用水の受水開始 2年 室鼻公園に海水プール完成／第1回きなはいや伊方まつり開催 3年 伊方町地域振興センター完成／各地区で町政懇談会スタート 4年 室鼻公園に研修施設(シーサイドハウス)完成 5年 伊方町老人デイサービスセンター完成 6年 伊方町観光物産センター(きらら館)完成／新伊方町総合計画策定 7年 町制施行40周年記念式典挙行、町章を改定、町民憲章・キャッチフレーズを制定／伊方町国際交流協会発足／米国レッドウイング市と姉妹都市友好関係を樹立 8年 新マリノベーション拠点交流促進総合計画として「田之浦漁港ふれあい整備事業」が水産庁の認定を受ける／伊方町民グラウンド完成／在宅介護支援センター開設／伊方スポーツセンター完成／レッドウイングパーク完成
	瀬戸	31年 三机村・四ツ浜村が合併し、瀬戸町誕生／伊予鉄バス大久まで運行開始 32年 真珠養殖三机湾で開始 33年 県道八幡浜～三崎間全線開通 34年 伊予鉄バス三崎まで運行開始 35年 母子健康センターを大久に開設 36年 権現山にNHK、RNB中継局開局 37年 瀬戸町漁業協同組合、瀬戸町農業協同組合、瀬戸町商工会発足	41年 瀬戸町中央公民館完成 43年 須賀に海水プール完成 44年 三崎～佐賀関間に国道九四フェリー「豊予丸」就航／瀬戸デッカ局開局 45年 「須賀の森」県指定天然記念物となる 49年 瀬戸町体育協会設立 	51年 町制施行20周年 52年 瀬戸町文化センター完成／八幡浜～三崎間に高速艇「みさき」就航／第1回町民運動会開催 54年 瀬戸町新庁舎完成 59年 町の木・町の花を制定／瀬戸町総合振興計画(第2次)策定 	61年 瀬戸町誌発刊／町制施行30周年／第1回瀬戸の花嫁まつり開催 62年 岡山県瀬戸町と姉妹町提携／第1回佐田岬メロディー駅伝開催 瀬戸ふるさと自然の家 63年 瀬戸ふるさと自然の家「ブリーズハウス」完成
三崎		30年 三崎村・神松名村合併により三崎町誕生 32年 九四連絡船三崎寄港 33年 三崎町役場庁舎落成／三崎縦貫道路開通／三崎町農業協同組合誕生 34年 大久～三崎間バス路線延長、伊予鉄バス運行 36年 神松名漁協と三崎漁協が合併、三崎漁協発足／三崎町商工会設立認可	40年 「佐田岬・宇和海」県立自然公園に認定／三崎町章決まる 41年 南予農業経済圏計画案まとまる 44年 三崎～佐賀関間の国道九四フェリー開通式／佐賀関町と姉妹町提携 47年 NHK三崎中継局開局 48年 三崎町振興計画策定／三崎町民会館竣工	50年 九四トンネル海底調査開始 51年 三崎トンネル完成、供用開始 53年 生活改善センター完成 56年 三崎町文化協会設立／南予の水がめ野村ダム竣工式 57年 愛媛放送・南海放送、三崎局開局 59年 「ニューメディアコミュニティ構想」モデル地域指定正式決定 	60年 三崎町制施行30周年記念行事開催／三崎町誌発刊、町内全戸配布／町の木・町の花制定 62年 国道197号頂上線(佐田岬メロディーライン)開通

9年	伊方社会福祉協会設立／ 伊方町農水産物処理加工施設完成
10年	北海道泊村と姉妹町村縁組締結／ 特別養護老人ホーム「つわぶき荘」が完成
11年	国営南予農業水利事業附帯県営かんがい排水事業竣工
12年	町道「湊浦伊方越線」城の台トンネル貫通
13年	伊方町園芸施設完成／伊方町新庁舎完成
15年	伊方町・瀬戸町合併協議会設立／ 亀ヶ池池畔にて温泉開発成功
16年	伊方・瀬戸・三崎、三町合併協定調印式が行われる
17年	町の配置分合（三町合併）総務省告示／伊方町閉町式典

9年	農林漁家婦人活動センター完成
10年	ファームサービス事業開始／ 高齢者共同生活支援施設完成
11年	瀬戸町営バス運行開始／ 農林水産物直売所「だんだん」オープン
12年	個性ある町づくり全国表彰受賞／瀬戸町の宝物決定
13年	瀬戸町商品券発行
14年	瀬戸町総合振興計画（第4次）策定／ 瀬戸診療所が三机中学校跡地に新築落成
15年	高齢者総合福祉施設「瀬戸あいじゅ」新築落成／ 風力発電事業風車11基完成・運転開始
16年	伊方・瀬戸・三崎、三町合併協定調印式が行われる
17年	町の配置分合（三町合併）総務省告示／瀬戸町閉町式典

12年	町制施行45周年記念行事開催
13年	国道九四フェリー「ニュー豊予3」就航／ 第3次三崎町総合振興計画策定
14年	三崎大川放水路通水／ 広域中山間整備事業（赤坂農道等）完成／ 県営畑地帯総合整備事業（三崎北、第一地区）完成
15年	合併の枠組みを決める住民投票実施
16年	町営バス運行開始／三崎共選選果場落成／ 伊方・瀬戸・三崎、三町合併協定調印式が行われる／ 台風による被害甚大 (度重なる上陸により公共施設、農水産物に被害)
17年	三崎町地域新エネルギービジョン策定／ 町の配置分合（三町合併）総務省告示

平成17年～令和3年

17年	新伊方町発定、新伊方町庁舎開庁式／ 佐田岬小学校閉校（正野小学校・串小学校の統合）／ 伊方町生涯学習センター完成／ 町章・町の木「うばめがし」、町の花「つわぶき」、町の魚「あじ」が決定	
18年	二名津中学校閉校（三崎中学校に統合）／ 伊方浄化センター竣工・通水式、供用開始／ 小規模作業所「ふれあい岬」開設／町道湊浦伊方越線（バイパス）全線開通／ NPO 法人佐田岬ツーリズム協会設立／伊方町商工会合併契約調印式／ 伊方町第1次総合計画前期基本計画策定（H18年度～22年度）	
19年	伊方町商工会合併／三崎ウインドパーク竣工式（風車20基）／ 伊方ウインドファーム起工式／瀬戸アグリトピア施設完成／ 名取トンネル完成、供用開始／ 伊方町健康交流施設亀ヶ池温泉オープン	
20年	農業支援センター設立／ 伊方町デマンド交通運行開始／ ごみ収集業務、国民健康保険税の一元化／ 伊方町自主防災連絡協議会結成	
21年	豊之浦小学校閉校（伊方小学校に統合）／ 塩成小学校閉校（三机小学校に統合）／ 三崎小学校新築落成記念セレモニー／防災行政無線（固定系）完成／ 公営住宅「伊方団地」完成	
22年	伊方保育所完成／佐田岬斎場完成／ 明治百年記念公園整備／リサイクルセンター完成／ 三崎小中学校プール完成／伊方エコパーク風力発電所完成／ 三崎製氷施設完成／第2次行政改革始まる（H22年度～24年度）	
23年	「メロディー道路」記念式（瀬戸農業公園前）／ 防災行政無線（移動系）完成／ 伊方町第1次総合計画後期基本計画策定（H23年度～27年度）	
24年	携帯電話「緊急速報メールサービス」開始／ 入院医療費助成制度見直し（小・中学生）／ 伊方町障害者虐待防止センター開設	
25年	農水産物放射能簡易測定装置導入／三崎つわぶき荘完成／ 二名津保育所閉所式／二名津小学校閉校（三崎小学校に統合）／ 「第3次伊方町行政改革大綱」策定／ レンタサイクル事業開始（瀬戸アグリトピア・佐田岬はなはな）／ 「避難行動計画」策定／ 地域経済の連携、協力協定締結式（伊予・愛媛銀行）／ 交通安全対策優良市町表彰受賞	
26年	佐田岬小学校閉校（三崎小学校に統合）／子ども・子育て支援新制度開始／ 「行政サービス改善に関する提言」募集開始／	

26年	「伊方町観光まちづくり計画」発定／中村修二氏 ノーベル物理学賞受賞
27年	二見小学校閉校（九町小学校に統合）／ 中村修二氏 町民栄誉賞授賞式、記念碑除幕式／ 「災害時の医療救護活動協定」締結（八幡浜市医師会・八幡浜市）／ 伊方町観光交流拠点施設「佐田岬はなはな」オープン／ 「佐田岬しあわせプロジェクト」開始／ 亀ヶ池温泉簡易宿泊施設オープン／連携協力協定締結（愛媛大学）／ 瀬戸展望休憩所点灯式
28年	「伊方町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定／ 「伊方町環境基本計画」策定／ 子育て交流広場「スマイルルーム」開設／ 道の駅「伊方きらら館」リニューアルオープン／ 「第4次伊方町行政改革大綱」策定／ 伊方町移住・定住促進協議会設立／ 伊方町イメージキャラクター「サダンディー」誕生／ 伊方町第2次総合計画前期基本計画策定（H28年度～R2年度）
29年	川之浜保育所閉所式／三崎保育所移転／ 佐田岬灯台点灯100周年／佐田岬灯台御籠島エリアオープン／ 短期宿泊施設「亀ヶ池物語」利用開始／ 佐田岬灯台 有形文化財登録／ふるさと伊方創生塾開設／ 伊方町学校給食センター設立
30年	「メロディー道路」記念式（大峠トンネル前・瀬戸トンネル前）／ 伊方地域エネルギービジョン策定／加周保育所閉所式／ 亀ヶ池バイパス開通式／ 「心豊かな生活実現に向けての連携協定」締結（河原学園人間環境大学）／ 「災害時における電気設備等の応急対策業務の協力に関する協定」締結（愛媛県電設業協会）
31年 (令和元年) 2年	水ヶ浦小学校閉校（伊方小学校に統合）／地域巡回バス運行開始 第2次伊方町男女共同参画基本計画策定／ 観光交流拠点施設「佐田岬はなはな」リニューアルオープン／ 「海の民話のまち」認定／ 伊方町図書館 電子図書館（図書除菌機設置）として開館／ 「東京2020オリンピック聖火リレー」聖火展示（町役場本庁）
3年	伊方町第2次総合計画後期基本計画策定（R3年度～R7年度）／ 伊方町新町建設計画策定（H17年度～R7年度）／ 三崎高校町営寄宿舎「未咲輝寮」完成／ 「東京2020オリンピック聖火リレー」開催／ 伊方町過疎地域持続的発展計画策定（R3年度～R7年度）／ 「地方創生に関する連携協定」締結（株式会社）／ 一般社団法人「佐田岬観光公社」設立



【町章】

美しい海に突き出した日本一細長い佐田岬半島を中心にデザインし、それを取り巻くように、伊方町の「i」の英字をエネルギーと波にして躍動感と明るい未来への広がりを表しています。



【町の木/ウバメガシ】

町内全域に自生し、じっくりと力強く大地を抱きかかえて育ち、最も堅い材となります。伸びゆく伊方町にふさわしい木です。



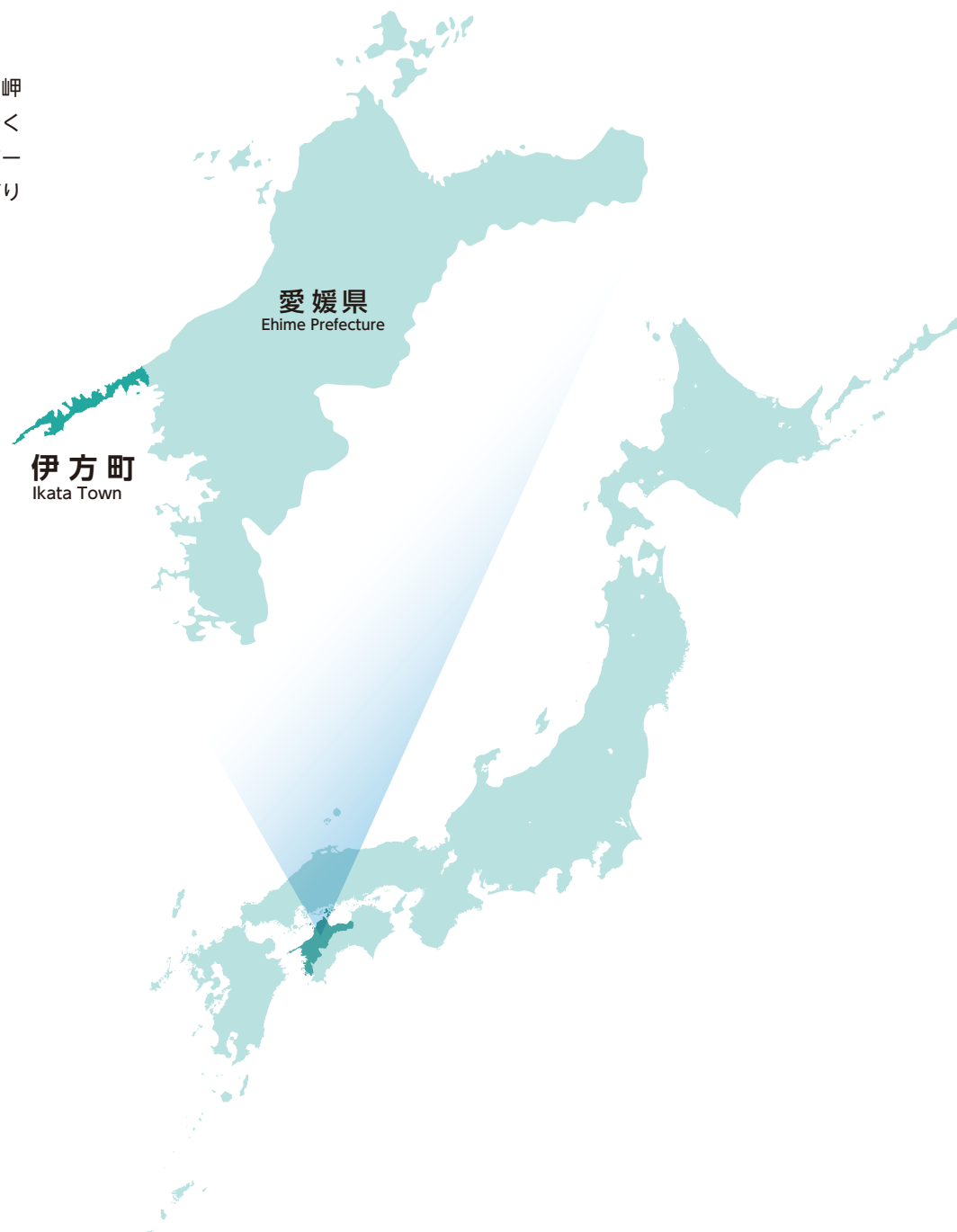
【町の花/つわぶき】

町内全域に自生し、黄色の花は素朴で人情味あふれる住みよい伊方町を象徴するにふさわしい花です。



【町の魚/あじ】

伊予灘と宇和海一帯で捕れる魚で、身近でなじみが深く、活きが良く、元気いっぱいの伊方町にふさわしい魚です。





佐田岬半島上空からの眺め

【位置】

伊方町は、四国の最西端、豊予海峡に突き出した「日本一細長い」佐田岬半島に位置しています。東西約 37 キロメートル、南北の最大幅は約6.2キロメートル、最小0.8キロメートル、町の総面積は 93.98 平方キロメートルです。東は八幡浜市と接し、西は豊予海峡を隔てて大分市と相對しています。



伊方町

発行／愛媛県伊方町
発行年月／2022年3月
編集／伊方町総合政策課
〒796-0301 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1993番地1
TEL 0894-38-0211(代)
ホームページ <https://www.town.ikata.ehime.jp/>
制作・印刷／佐川印刷株式会社



このパンフレットの本文は、使用した用紙と同じ重量のCO₂を、国内のオフセット・クレジット（J-VER）によって、オフセットしています。

【本文使用紙】ヴァークレイ CoC（ハイホワイト） 62.5kg

